

年間指導計画作成にあたって

本資料は、令和6年度版 光村図書 小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」を使用するにあたって、年間指導計画を作成する際に参考になることを意図して作成したものです。年間指導計画の作成にあたっては、学習指導要領の基本的な考え方と「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）の目標を根底に据えつつ、教科書を活用し、いかに各学校の実態に応じて実効性のあるものにするかという点にご配慮願います。

■学校・学級の実態に応じた年間指導計画の作成

- 道徳科においては、主たる教材として教科書を使用するとともに、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要とされています。よって、年間指導計画の作成においては、教科書の教材や配列を生かすとともに、他の多様な教材も活用しつつ、各学校・学級の実態に応じてアレンジすることが望まれています。学校・学級の実態に合わせた地域教材等の多様な教材がどの教科書教材と併用したり、入れ替えたりすることが可能であるかを、教科書の教材ごとに設定されている内容項目・主題の点で捉え直し、検討することが必要になります。また、学校独自の教育目標や「総合的な学習の時間」、学校行事や地域の行事と関連を図ることで、より効果的な道徳性の育成につながると考えられます。
- 平成29年7月に発表された「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の「第5章―第2節―2―（1）道徳科に関する評価の基本的な考え方」に、「授業において児童に考えさせることを明確にして、『道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める』という目標に掲げる学習活動における児童の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められる。その際、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められる。」とあります。

そのような「大きくくりな評価」を実施するために、1時間1時間の授業において児童の学習状況を見取るための視点として、本資料では「評価の視点」という欄を設けました。「評価の視点」は、道徳科の目標及び、学習指導要領の内容項目を基に作成していますが、教材の特性を生かし、「ねらい」と「学習活動」の具体的な内容に沿って、教師が見取るべき視点の例を示しています。これは、児童の成長のために生かされなければなりませんし、併せて、教師の授業評価につながるものでなければならぬでしょう。児童の道徳性を育むとともに、よりよい授業改善に役立てられる評価のためのヒントとしてご活用ください。

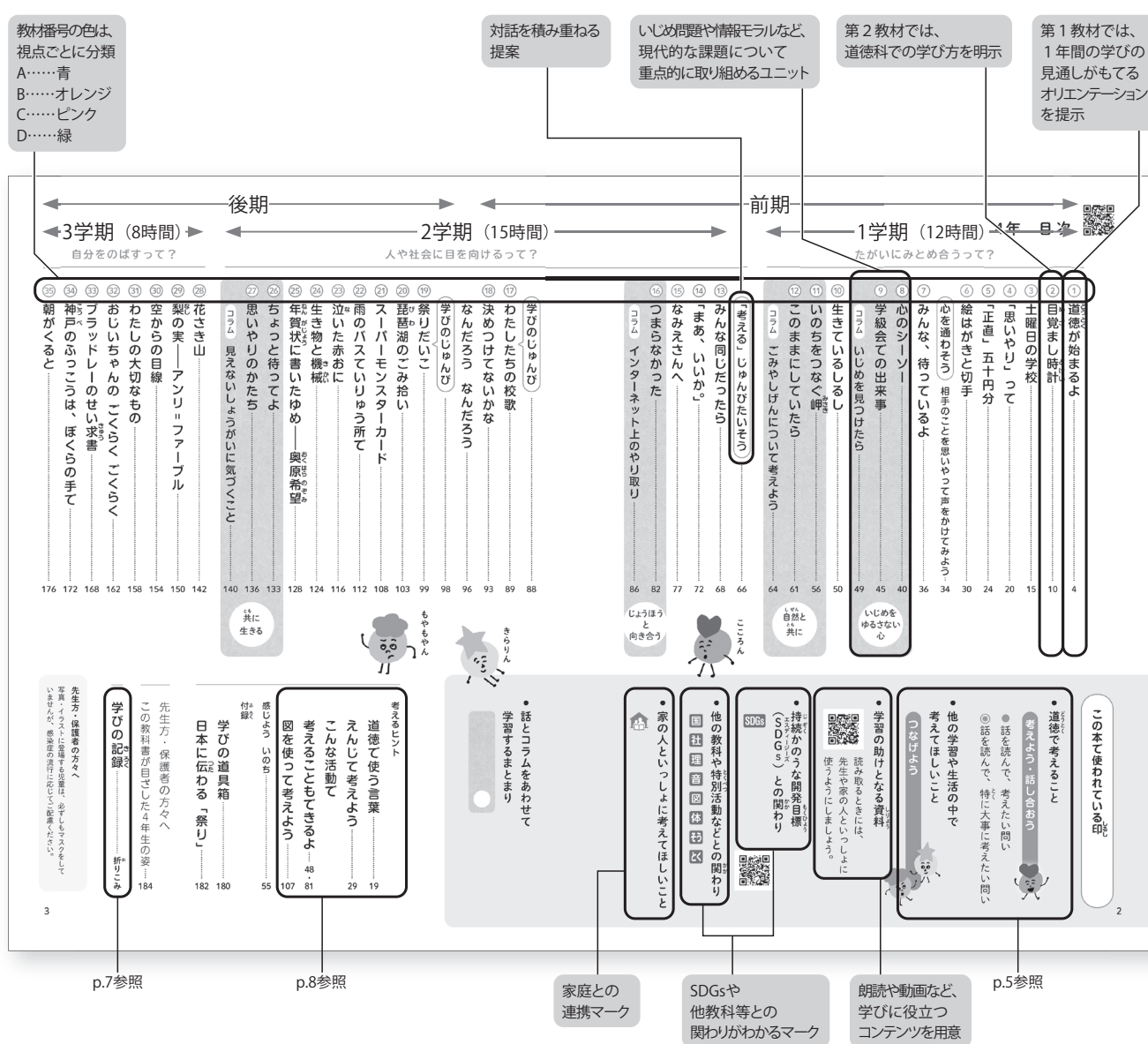
本資料が、「道徳科」の授業の発展を目ざした、年間指導計画の作成の一助になることを願っています。

教科書の工夫と配慮

令和6年度版小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」は、児童の主體的・対話的で深い学びが実現するよう、また、先生方の日々の授業をサポートすることができるよう、さまざまな工夫や配慮をしています。それらについて、**4年の教科書を例に**挙げながら解説します。

■児童が主体的に道徳性を養うことができる年間構成

- ・児童の発達の段階や内容項目の特質に鑑み、1年間の学びを通じて、児童が主体的に、そして着実に道徳性を養えるような構成を目指しました。

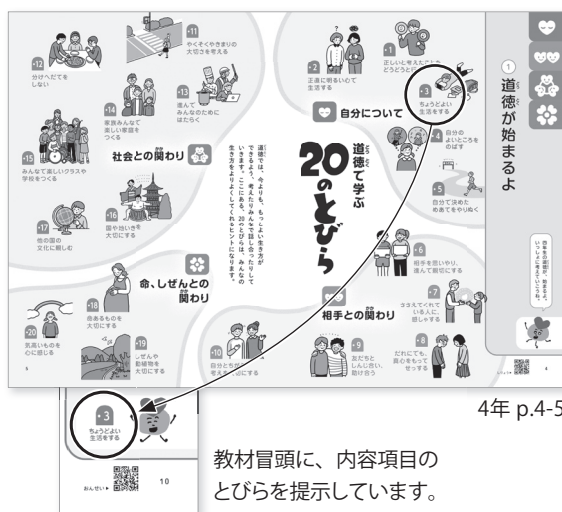
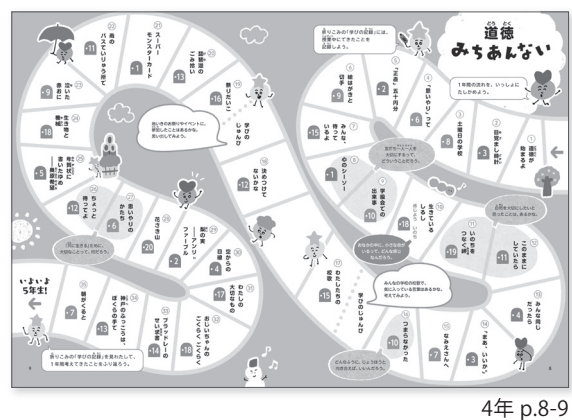


■児童の主体的な学びを支える工夫

✓ 第1教材 「①道徳が始まるよ」

何を学ぶのかがわかる(2～6年)

- ・第1教材では、これから1年間、道徳科で何を学んでいくのかをはっきりと意識できるように示しました。
- ・20の内容項目(2年は19、3・4年は20、5・6年は22)を、20のとびらになぞらえ紹介しました。各教材の冒頭に、内容項目をとびらのマークと共に提示することで、今日の1時間には、何について考えるのかを自覚できます。
- ・「道徳みちあんない」は、学びの期待感をもって1年間の学びを見通せるような紙面としました。このページで、ユニット(p.3参照)の位置や、事前に学習しておくことが有効な教材について、確認することができます。



✓ 第2教材 「②目覚まし時計」

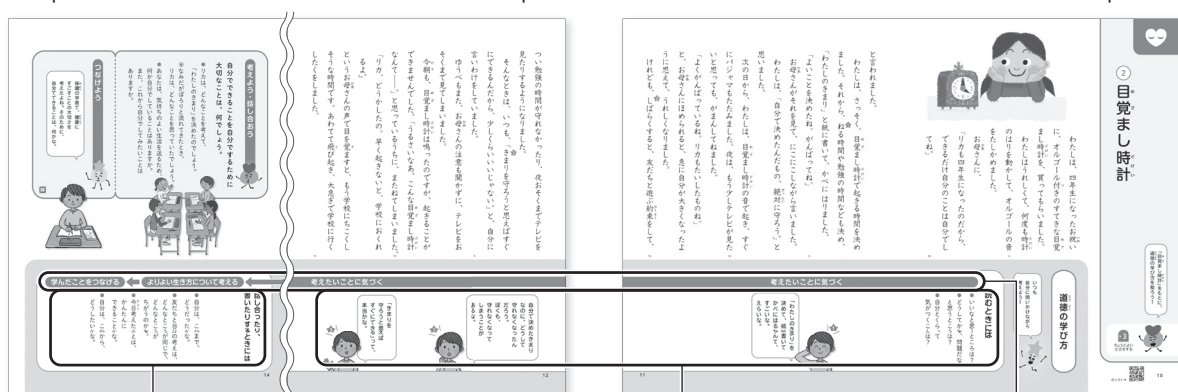
どうやって学ぶのかがわかる(3～6年)

- ・第2教材では、教材に沿って、道徳の学び方を示しました。教材と向き合ったとき、思わず生まれる問いを大切に、教材との対話、他者との対話、自分との対話が意識できるように示しています。また、「考えたいことに気づく」「よりよい生き方について考える」「学んだことをつなげる」という、学びのステップも示しています。

4年 p.14

4年 p.12

4年 p.10-11



他者との対話、自分との対話

教材との対話

学びのステップ

■児童の対話と学び合いを引き出す教材の紙面構成

- 教材には、1時間の学びの道筋を示した「てびき」を用意し、ユニバーサルデザインや特別支援教育などの観点から、見やすく読みやすい紙面にしました。

本文は、ユニバーサルデザインにも配慮したオリジナルの教科書体活字を採用しています

形と色で判別できる視点マーク

22 雨のバスていりゅう所で

君が、顔を待って
ならぬのは、どんなとき？

やんこくや
きんぎょの
大切さを教える

112

今日の、よし子がお母さんといっしょに、おばさんの家に出かける日です。とこが、朝から雨がふっています。家を出るときには、雨はいつそう強くなり、風もふいてきました。おみやげが入っている手さげぶくろにも、大つぶの雨がどんどんふりかかります。バスのていりゅう所では、バスを待つ人たちが、すぐそばのお店ののき下で、雨宿りをしています。のき下に入っても、雨は、よし子の長くつや手さげぶくろにふきつきます。

雨宿りをしている人たちは、バスが来る方々とき違くの方に、小さくバスが見えました。よし子は、雨の中へ、タッタッとかけ出すと、スが来たことを知った人たちは、そろそろとていその時です。後ろの方で、お母さんの声が聞こえたように思いました。よその人の声も聞こえたように思いました。それでも、よし子は、別に気にしませんでした。バスが止まりました。よし子がかさをすばめようとしたとき、かたが後ろの方にぐいと強い力で引かれました。びっくりしてふり返ると、お母さんの手でした。お母さんは、何も言わないで、よし子をお母さんがならんでいた所まで連れていきました。いつものお母さんたちが、とてもこわい顔で

雨宿りをして

やさしく話しかけてくれるお母さんなのに、今日は、全然ちがいます。そんなお母さんの横顔を見ていたよし子は、自分がしたことを考え始めました。

考えよう、話し合おう

みんなが気持ちよくすごすためには、どんなことが大切なのでしょう。

●お母さんに、ならんでいた所まで連れていかれたとき、よし子は、どう思ったでしょう。

●お母さんの横顔を思えば、よし子は、どんなことを考えていたでしょう。

●みんなが気持ちよくすごすためには、どんなことが大切なのでしょう。

つなげよう

約束やまじりじやないのに、みんなが気持ちよくすごしているのって、あるのかな。

成田 國英 作 ● 光原 明日香 絵

115

キャラクター「きりりん」や「もやもやん」が、児童の生活と学びをつなげます

テーマに迫るために、特に考えてほしい問いには、◎(二重丸)を付しました

児童が、教材を通して何について考えるのがわかるよう、学びのテーマを太字で示しました

本時の内容項目を、平易な言葉で示しました

キャラクター「こころん」が、児童を教材に誘います

学びを補助する朗読や動画

■対話から生まれる「気づき」を楽しむための工夫

④ みんなで気持ちよく話し合うためのこつ

相手の考えを丁寧に受け止める(2～6年)

- ・多様な他者と対話することで、初めて気づけることがあります。広がる世界があります。その対話を円滑に進めるための取り組み方を示しました。
- ・第1教材の中で、「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」を紹介しています。この「こつ」では、相手の存在や意見を受け止めることに重点を置いています。この「こつ」を試しながら、「やってみよう」に挑戦します。気持ちよくみんなで話し合うことで、新たな「気づき」が生まれることを知り、道徳科の学びをスタートすることができます。

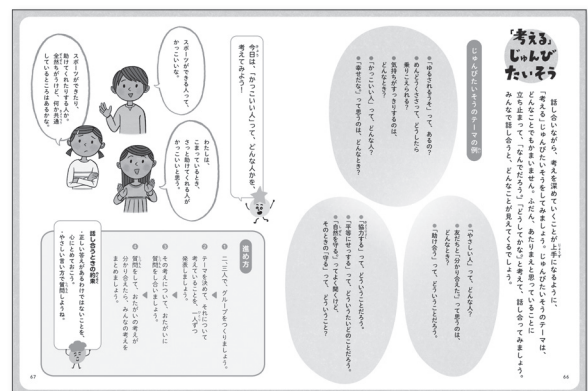


4年 p.6-7「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」

④「考える」じゅんびたいそう

みんなで話し合うことの楽しさを味わう(2～6年)

- ・4月に、みんなで気持ちよく話し合う「こつ」を意識した児童が、9月に『『考える』じゅんびたいそう』に出会います。普段から対話の楽しみを味わえるような機会をつくろうという試みです。
- ・ここでは、話し合いながら道徳的価値についての考えを深めていくための、対話の練習を促しています。さまざまなテーマを巡って、互いの考えを理解し合おうとする過程を積み重ねることで、問い合うことの楽しみを味わってもらいたいと願っています。
- ・日々の生活の中で取り組むことで、児童の話し合いに対する意識が変わっていくことをねらっています。

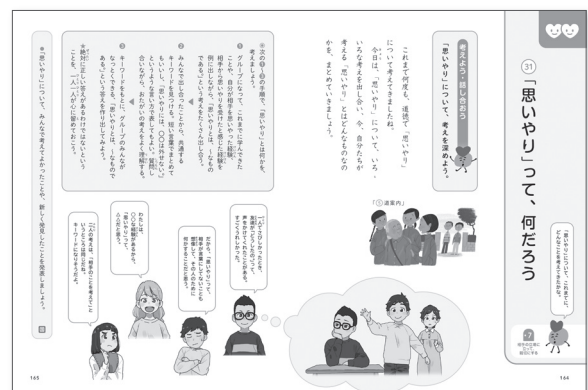


4年 p.66-67 「『考える』じゅんびたいそう」

④「思いやり」って、何だろう

哲学的な対話を楽しむ（5・6年）

- ・特に5・6年では、1学期、2学期と、対話を積み重ねてきた児童が、3学期になって、「○○って、何だろう」という、物事の本質を対話によって捉えようとする活動に取り組みます。
- ・道徳的価値や振る舞いについての受け止め方は、一人一人違います。例えば「思いやり」とは何かについて、お互いに突き詰め、「これなら納得できる」という共通理解を見いだすことは、他者と協働しながら、よりよい方向を旨ざす資質・能力へとつながると思えました。



5年 p.164-165「③『思いやり』って、何だろう」

■児童自らが道徳性を養っていけるようにするための工夫

✓ 児童一人一人の道徳的な価値観を耕し広げる教材群

- ・ 児童の心にストレートに飛び込む読み物教材、場面ごとに考えていく教材や漫画を主とした教材など、児童が多面的・多角的に考えられる多様な教材を用意しました。
(4年を例に)

4年 p.40-44
「⑧心のシーソー」



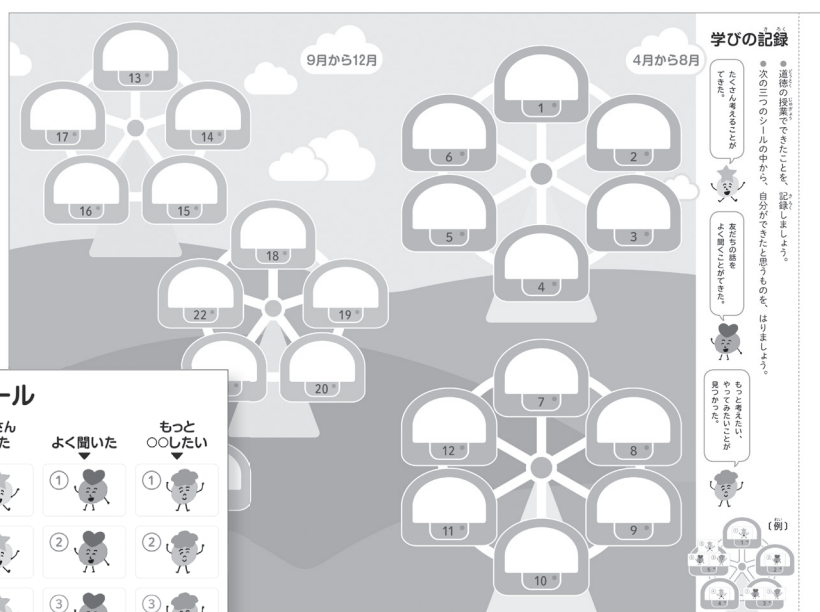
4年 p.24-29
「⑤『正直』五十円分」

4年 p.68-71
「⑬みんな同じだったら」

✓ 1時間ごとの振り返りを記録し、1年間の学びを振り返る

- ・ 巻末に、1時間ごとの振り返りを記録する折込「学びの記録」を用意しました。1・2年は学期ごと、3～6年は1年間で1枚で見渡せることにこだわりました。児童自身はもちろん、先生や保護者も児童の成長や変化を確認することができます。

4年 巻末折込
「学びの記録」



4年 巻末
「学びの記録シート」



✓ 多様な学習活動で児童の学びを深める「考えるヒント」

- ・深い学びへと誘うために、各学年、「考えるヒント」として、さまざまな学習活動を提案し、豊かな学びにつなげられるように工夫しました。

人物を伝える言葉の紹介



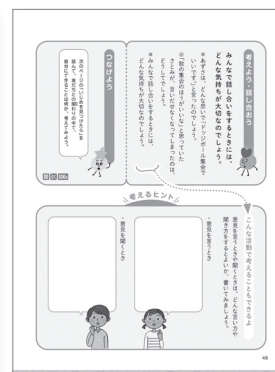
4年 p.19「道徳で使う言葉」

役割演技の提案



4年 p.29「えんじて考えよう」

行為に結び付けて考える提案



4年 p.48「こんな活動で考えることもできるよ」

思考ツールを活用する提案



4年 p.107「図を使って考えよう」

✓ 自分に引き寄せて考えることができる「感じよういのち」



4年 p.55「感じよういのち」

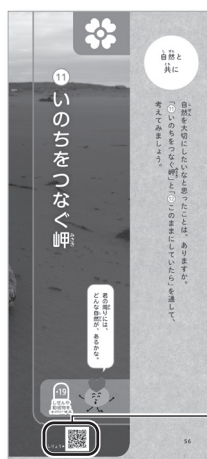
- ・「生命の尊さ」に重点を置き、各学年、1年間に三つの教材を用意しています。その中の一つに、児童が、生命の尊さを実感できるような活動として、「感じよういのち」を提案しています。



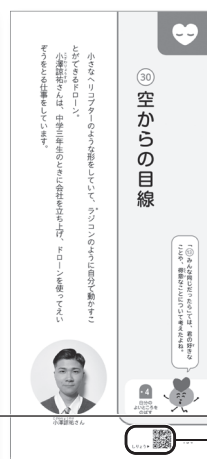
4年 p.50-54
「⑩生きているしるし」

✓ 児童の思考を広げ深めるデジタルコンテンツ

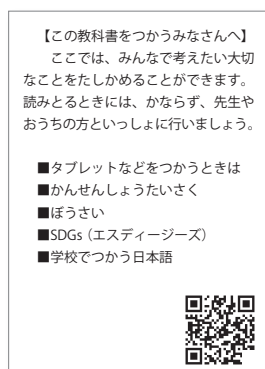
表4



4年 p.56-60
「⑪いのちをつなぐ岬」



4年 p.154-157
「③空からの目線」



- ・二次元コードが付してある教材には、授業の中で活用できる動画などの資料や、臨場感あふれる朗読など、児童が興味、関心をもって視聴できるコンテンツを用意しています。また、家庭との連携の観点から、新しい生活様式や防災、SDGsに関わることなど、他教科や日常生活にも関連するコンテンツを併せて用意しています。

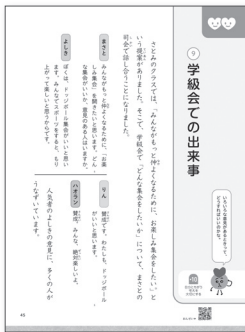
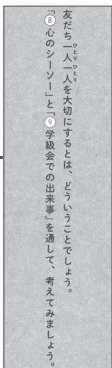
「⑪いのちをつなぐ岬」では、ウミガメの産卵の様子などの動画を、「③空からの目線」では、小澤さんがドローンで撮影している動画を、視聴することができます

■現代的な課題と向き合う心を育むための工夫

✓「いじめ問題」「情報モラル」「環境」「共生」

ユニットで、テーマを探求する

- ・3～6年では、現代的な課題として重要とされる「いじめ問題」「情報モラル」「環境」「共生」の四つのテーマを取り上げ（1・2年は「いじめ問題」「情報モラル」の二つ）、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を構成しました。
- ・コラムでは、課題を自分のこととして受け止め、自己の生き方についての考えを深められるよう配慮しました。

コラム	教材②	教材①	よびかけ
 <p>4年 p.49 「いじめを見つけたら」</p>	 <p>4年 p.45-48 「⑨学級会での出来事」</p>	 <p>4年 p.40-44 「⑧心のシーソー」</p>	 <p>「⑧心のシーソー」と「⑨学級会での出来事」を通して、考えてみましょう。</p>

■全ての児童にとって使いやすく、わかりやすく

特別支援教育への配慮

- ・教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から、専門家による校閲を受け、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点到した編集とデザインを心がけました。
- ・必要に応じて、挿絵に登場人物の名前を添えることで、挿絵に描かれた人物が、本文にあるどの登場人物を表しているのか、わかりやすくしました。
- ・教科書全体において、教材や挿絵に登場する人物や執筆者に性別の偏りがなく、人種・身体的特徴などについても多様性に意を用い、記述には十分配慮しています。また、人権教育の専門家に全面的な校閲をお願いしました。

学習上の配慮

[判型について]

- ・B5判より横幅を10ミリ広くすることで、持ち運びやすいサイズのまま、文字や挿絵を大きく

示しています。児童の負担を最小限におさえるよう配慮しました。

[文字について]

- ・文字の大きさは、発達の段階、教材の内容によって、十分に配慮しました。
- ・本文は、ユニバーサルデザインにも配慮した、オリジナルの教科書体活字を用いました。

[表記について]

- ・当該学年の配当漢字には、全て振り仮名を付しました。
- ・読みの負担を軽減するため、熟語の混ぜ書きを極力避けました。そのため、当該学年より上の学年の配当漢字が掲出される場合には、その全ての漢字に振り仮名を付しました。

[文章の区切りについて]

- ・てびきの問いは、意味のまとまりで改行することで、児童が問われていることの意味をつかみやすいようにしました。

本資料の構成

本資料の構成は、以下のとおりです。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	月 (週)	主題名・内容項目・教材名	ねらい	学びのテーマ（★）・学習活動（中心的な活動は黒丸数字） 適宜取り組むことが有効な学習活動（▼）	評価の視点	他の教育活動や 現代的な課題等との関わり	
たがいにみとめ合うって？	5月 (2)	【思いやりとは】 B (6) 親切、思いやり 4 「思いやり」って	骨折した友達に手を貸そうとする「わたし」の姿などを通して、思いやりとはどんなものかについて考えさせ、相手の状況や気持ちを考え、適切な行為を進んで行おうとする判断力を育てる。	★「思いやり」とは、どんなものか。 ①「思いやりのある人」とはどんな人かを考え、発表する。 ②「『思いやり』って」を読み、「わたし」がプリントを盗んだとき、なんだか悲しそうだった夏美を見て、「わたし」はどんなことを思ったかを想像し、発表する。 ③「わたし」はどんな思いで「てつだおうか？それとも、自分でやりたい？」ときいたのかを考え、話し合う。 ④「思いやり」とはどんなものかを考え、話し合う。 ▼自分と違う立場の人がどんなふうを感じるのかを考えられる本を読む。 ▼教科書 P181 の「学びの道具箱」(マグネット対話)を適宜、活用する。 ⑤巻末「学びの記録」にシールを貼る。	○相手の状況や気持ちに寄り添うことの大切さを考えている。 【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】 相手に対して本当に思いやりのある行動を取っているかと、自分を見つめている。 【道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考える】 手助けする、見守るなど、相手に対しての思いやりの現れ方はさまざまなことについて考えている。 【道徳的価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める】 相手の状況や気持ちを察して行動するために、どんなことを大切にすればよいかと考えている。	図書館活用 共生 福祉に関する教育	
	5月 (3)	【正直に行動するために】 A (2) 正直、誠実 5 「正直」五十円分	多かつたおつりを返しに行った二人の姿などを通して、自分から正直に行動するために大切なことを考えさせ、正直であることのよさを感じ、明るく伸び伸びと過ごす心づもりを育てる。	★自分から正直に行動するために大切なことは、何でしょう。 ①正直に行動できなかった経験について振り返り、出し合う。 ②「『正直』五十円分」を読み、おばちゃんから足りないおつりを返してもらったとき、たけしはどんな気持ちだったかを想像し、発表する。 ③たけしはどんなことを考えて 50 円を返しに行ったかを考え、話し合う。 ④二人はどんなことを話しながら夕焼けの道を帰ったと思うかを演じて考え、話し合う。 ▼教科書 P29 の「えんじで考えよう」を読み、役割演技をする際に活用する。 ▼正直にできたときの気持ちを思い出してみる。 ⑤巻末「学びの記録」にシールを貼る。	○正直であることのよさを感じ、明るく伸び伸びと過ごす心づもりについて考えている。 【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】 正直にできなかった経験について振り返っている。 【道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考える】 正直に行動することについて、自分を偽ることの苦しさや、伸び伸びと過ごせる心地よさの両面から考えている。 【道徳的価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める】 自分に正直であるためにどんな姿勢を大切にしていきたいかを考え、これからの自分に生かそうとしている。	図書館活用 消費者教育 法教育	

① 学習のまとめり …………… 1 年間の学習を、以下の三つの「学習のまとめり」に分けて示しました。

〈1年〉

- ・4月から8月の学習のまとめり…自分自身を見つめる
 - ・9月から12月の学習のまとめり…他者との関わりを見つめる
 - ・1月から3月の学習のまとめり…人や社会との関わりを見つめる
- 〈2～6年〉
- ・4月から8月の学習のまとめり…他者との関わりを見つめる
 - ・9月から12月の学習のまとめり…人や社会との関わりを見つめる
 - ・1月から3月の学習のまとめり…自分自身を見つめる

② 月（週） …………… 学習時期の目安を、月と週で示しました。

③ 主題名・内容項目・教材名

…………… 主題名

- ・【 】で囲って示しました。

…………… 内容項目

- ・学習指導要領で示されている A から D の視点と内容項目を並べて示しました。

…………… 教材名

- ・教材番号と教材のタイトルを並べて示しました。

- ・現代的な課題を扱ったユニット構成の箇所には、「いじめ問題（いじめを許さない心）」「環境（自然と共に）」「情報モラル（情報と向き合う）」「福祉・共生（共に生きる）」の別がわかるよう□で囲んで明示しました。

④ **ねらい** …………… 学習指導要領に則り、教材ごとに以下のような文言に統一して示しました。

- ・（教材の大まかな内容）などを通して、
- ・（★学びのテーマ）について考えさせ、
- ・～とする判断力／心情／実践意欲を育てる。

⑤ **学びのテーマ・学習活動・適宜取り組むことが有効な学習活動**

…………… **学びのテーマ**

- ・「★」を付け、教科書の「考えよう・話し合おう」に太字で示されている学びのテーマを示しました。

…………… **学習活動**

- ・児童を主語にした文言とし、基本的に以下の考えに沿って示しました。
- ・「①」は、教材冒頭の呼びかけを活用した、導入の取り組みを示しています。
- ・「②」以降の丸数字は、「考えよう・話し合おう」の問いについて考え、発表したり話し合ったりする活動を示しています。
- ・中心的な学習活動は、黒丸数字（③、④など）で示しています。
- ・各教材の最後の丸数字は、教科書巻末の「学びの記録」へのシールの貼付や記入を促しています。

…………… **適宜取り組むことが有効な学習活動**

- ・「▼」を付け、ユニット冒頭の呼びかけや、「つなげよう」のキャラクターの呼びかけ、「演じて考えよう」などのページを活用し、学びを広げたり深めたりする活動を示しています。

⑥ **評価の視点** …………… ・「ねらい」に即した最も重視すべき評価の視点を「○」を付けて示しました。さらに道徳科の目標にある「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」が実現できていたかを評価するため、

【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】

【道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考える】

【道徳的価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める】

という三つの視点を想定し、どのような児童の姿が目ざされるかを示しました。

⑦ **他の教育活動や現代的な課題等との関わり**

…………… 他教科や特別活動との関わりや、現代的な課題などとの関わりを示しました。